

**平成24年度 事務事業評価シート**

<b>事業の概要</b>	事務事業名	生涯学習相談事業						担当部	教育委員会事務局							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	生涯学習課							
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降			担当係	社会教育係						
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		17 生涯学習		1 「こまなび」を推進する									
		副目的														
	予算区分	款	10		項	5		目	1		大	5		中	1	
	根拠法令・個別計画	生涯学習相談員設置要綱、生涯学習指導員設置要綱														
	実施・運営方法 ※費用合計に占める経費の内訳(割合)	直接実施・運営	16 %			委託	84 %			助成	0 %					
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	生涯学習情報誌「こまなび」等やホームページによる情報発信をするとともに、電話や来館などによる問い合わせや相談に対して支援し、生涯学習活動の推進・活性化を促す。														
	内容 (手段)	<p>生涯学習指導員、生涯学習相談員・臨時職員の配置            生涯学習情報ガイド「こまなび」の発行(年2回) 平成23年度前期第10号、平成23年度後期第11号。            ホームページの掲載、出前講座の実施            平成24年2月からこまなびサロンを開設            職員は、市民講座修了生の育成事務。生涯学習情報誌「こまなび」の編集事務。生涯学習講師・ボランティアの登録・相談事務。こまなびフェスティバルの運営補助事務。            出前講座の運営補助事務。</p> <p>【直接経費の内訳】            委員謝礼 231,000円、旅費等 24,460円、こまなび印刷製本費等 3,395,700円            アンケート郵送料等 350,977円</p> <p>◎24年度実施内容            23年度と同様に実施する。</p>														
受益者負担	無															

		単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額		
<b>コスト</b>	<b>費用</b>	直接経費	千円	3,630	1,393	4,003	4,881	
		正職員	従事者数	人	0.10	0.92	0.14	0.14
			人件費	千円	531	4,893	744	744
		その他職員	従事者数	人	1.00	1.13	0.39	0.39
			人件費	千円	1,835	2,170	715	715
		費用合計	千円	5,996	8,456	5,462	6,340	
	対前年比	%			141.0	64.5	116.0	
<b>財源</b>	一般財源	千円	5,996	8,456	5,462	6,340		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	生涯学習情報ガイド「こまなび」の発行	部	目標		106,000	10,000	110,000
実績				108,000	10,000	110,000	
出前講座の講座数	講座	目標		—	—	—	—
		実績		127	120	120	
		目標					
		実績					
績	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	出前講座の要請数	講座	目標		—	—	—
実績				129	90	133	
こまなびフェスティバル参加団体数	団体	目標		51	52	53	53
		実績		53	50	50	

事業の自己評価	平成23年度の実施結果	事業の達成状況	生涯学習情報誌「こまなび」、ホームページを通して生涯学習の情報提供に努めた。市民からの生涯学習にかかる相談の対応や市民団体の活動内容を把握しアドバイスに努めた。出前講座を通して市政の情報提供に努めた。市民団体の学習成果の発表の場としてこまなびフェスティバルを開催し、目標達成には至らなかったが、例年並みの参加団体数を維持した。
	事業実施における課題等		こまなびサロンを平成24年2月から開設し、学習相談件数は増加しているが、更なる学習相談機能の充実を図ることが必要である。
	事業を縮小・廃止したときの影響		市民による生涯学習の機会が少なくなり、学習を通じた自己実現や仲間づくり、さらには地域課題解決に向けて取り組む機会が少なくなる。
今後の事業の方向性	方向性の判定	現状維持	
	判定理由	生涯学習の機会提供は行政が取り組む課題である。今後は学習した人と人、人と団体、団体と団体をつなげる仕組みづくりが必要である。	
	改善案等	学習した人と人、人と団体、団体と団体をつなげる仕組みづくりを検討する。こまなびサロン内に無料パソコンコーナーや作品展示ケースを配置し、気軽に人が訪れ、学習相談や学習情報を手に入れる環境づくりを整備する。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	現状維持	一次評価のとおり。ただし、こまなびの発行部数11万部は、本当に必要な部数なのか精査されたい。